

広報させば 情報カレンダー 05. 5月



日	月	火	水	木	金	土
1 三川内焼はまぜ ん祭り～5日	2	3 憲法記念日	4 国民の休日	5 こどもの日	6	7 早岐茶市・初市 ～9日
8 母の日サンセット クルーズ	9	10	11 市民展～15日 中小企業金融公 庫出張相談	12	13 発明相談 出前保育みんな よっといでー! (18日も)	14 せちばるで遊ぼう 「茶摘みのつど い」 天体観望会 (28日も)
15 野鳥教室	16	17 早岐茶市・中市 ～19日	18 市立総合病院の 健康教室	19	20 ビデオでトーク しま専科(27日、 6月3日も)	21 動物獣舎探検隊
22 サツキ展示会 ～29日	23	24	25	26 来春新卒者など を対象にした就 職面談会 無料出張総合相 談	27 早岐茶市・後市 ～29日 無料出張総合相 談	28 吉井ふるさとまつ り～29日、新茶 まつり「じげもん 市」～29日、婦 人ページェント
29 コンテナガーデ ン作り講習会、 キリン学習会、 ワクワクがとま らない 2	30	31 世界禁煙デー	5/29 西海国立公園指定50周年記念式典 九十九島PR隊お披露目式とパレード 食育イベント「楽しくおいしく食べようね！」 5月16日～20日 春の行政相談週間 6月1日～7日 水道週間			
毎月第1水曜 5月は11日 毎月第2金曜	中小企業金融公庫出張相談 (13～15時、佐世保商工会議所)	発明相談(10時～15時30分、 市役所商工労働課)	6月上旬の主な行事予定 6/1 「人権擁護委員の日」特設相談所 6/5 デンタルフェスティバル、カブトムシの飼育教室 6/7 早岐茶市・梅市～9日			

テレホンガイド

救急・火災

医療機関案内 ☎23-8199
火災情報 ☎0180-999-999

エイズ相談・性感染症相談

専用相談電話 ☎0120-104-783
Eメールアドレス shc783@city.sasebo.lg.jp

教育相談

青少年教育センター ☎22-0077
(毎月第3日曜の13時～16時は、休日教育相談を受け付けています)

女性相談

スピカ ☎24-6180
(水曜と祝日を除く毎日、9時～16時)

5月の健康テレホン

県保険医協会 ☎23-4300

3分間のテープで、祝日は前日の内容が流れます

月 上手な医療機関のかかり方 **火** 高齢者のリハビリ **水** 子どもの救急シリーズ **熱** さましを使って熱が下がらない **木** 小児の中耳炎の問題点 **金** 歯を白くしたい **土、日** 妊娠と肺塞栓症

人のうごき (4月1日現在)

総人口 247,282人(1,596)
男 116,098人(972)
女 131,184人(624)
世帯数 97,222世帯(374)

3月中のうごき

転入 2,253 **転出** 3,742
出生 157 **死亡** 264

見て、聞かせば 市政だより

テレビ 毎週土曜日放送(約5分間)
NBC(9時25分) NIB(11時25分)
NCC(11時40分) KTN(17時25分)

ラジオ
NBC 毎週日曜日 9時10分
FM長崎 毎週火曜日 9時05分

長崎新聞 毎月第2、4水曜日広告欄



こんにちは市長です。

昭和と平成の大合併

4月1日、佐世保市は吉井町、世知原町と合併し、新しいまちづくりの歴史を刻む第一歩を踏み出しました。2年間にわたる合併協議ではお互いの自治体の立場を理解し合いながら、数多くの議題を一つずつ丁寧に議論してきました。

この日は、くしくも50年前、当時東彼杵郡に属していた折尾瀬(現三川内地区)、崎針尾(現針尾地区)、江上の各村が佐世保市と合併した日でもあったのです。

吉井・世知原地区の皆さんは新しい市民としてさまざまな不安がしばらくは続くでしょう。しかし、昭和の大合併では、今回の合併のように民主主義的手法がとられたとは言えませんでした。不満、不安が解消されないままの合併であったものと思われる。しかし、50年の歳月が流れた今、これらの地区で佐世保市民としての一体感を否定する人は、もはやいないでしょう。

今回の合併では、常に対等という精神で話し合いました。吉井・世知原地区の皆さんが市民としての一体感を感じる日は、50年前の合併のときに比べて、はるかに早い時期に訪れるものと確信しています。

佐世保市長 光武 顕



昭和2年の里道改修碑(横尾町)

県内でも地方自治体の合併が進んでいます。昭和2(1927)年日宇村と共に佐世保市に合併した佐世村の南部横尾町に、その年整備された里道の記念碑が立っています。明治35(1902)年の佐世保市制施行時、折橋免の一部や田代、赤木、春日地区と共にあえて市になることを承認せず、独立した村として袂を分かったのが佐世村です。

梅田町の市立休日急病診療所前から横尾町上部へ続く市道から、西へ急斜面を石段で登る道が整備された里道です。この地域の発展で、当時の総延長はうかがえませんが、おそらく数百メートルだったと思われます。一部コンクリートで覆われていますが、元の砂岩が残っており、雨の日など住民の足元を守る生活道路



として重宝されたでしょう。入口に立つ碑には「昭和2年1月14日起工 同5月5日竣工」とあります。また、「金一百参円五銭 金谷周九郎」など、応分の費用を負担した住民の名前も書かれています。周九郎氏の孫になる安永ミツさん(84歳)が近くに住んでおられ、「祖父は明治35年完成した山の田水源

地一帯の土地を所有していて、海軍に買収されたので、その資金で横尾に土地を買ったのです」と話されました。当時としては大金を里道改修費に寄付したのも、この土地の大地主であれば納得がいきます。

里道改修の3年前、中央高校の場所にあった旧長田病院が、休日急病診療所の背後に移転して来たこともあり、それまで乳

牛牧場と数戸の民家だったこの一帯は、この後住宅地として発展しました。(筒井隆義)

